

北の大地で酪農青年と交流しませんか

～北海道別海町で開催される「菊と緑の会」 独身女性の参加者を募集～

枚方市の友好都市・北海道別海(べつかい)町は、今年も酪農青年と独身女性との交流会「菊と緑の会 in べつかい」を開催する。今回は、10月11日(金)～14日(月・祝)の3泊4日で開催予定。同町では独身女性の参加者を募集している。

★北海道東部に位置する別海町は、広大な原野を利用して約11万頭の乳牛が飼育され、牛乳をはじめバター、チーズの生産など日本屈指の酪農郷として知られている。東はオホーツク海に面し、サケ、マス、ホタテ、北海シマエビなどの漁業も盛んで、豊かな自然と資源に恵まれた土地。面積は、1319.63平方キロメートルで、人口は約1万5千人。酪農に570戸、漁業に352戸が携わっている。

★別海町では1970年代から酪農後継者のパートナー不足が深刻化。同町の男性と結婚した枚方市出身の女性(神部久美子氏 昭和49年6月結婚)が、里帰りの際に枚方市役所を訪問し「酪農の楽しさと後継者のパートナー不足」を訴えたのを機に、枚方市と同町が協力し、昭和59年に初めての交流会となる「菊と緑の会」が開催された。以来、交流会は毎年開催され、これまでの40回で653人の女性が参加し、このうち96組のカップルがめでたくゴールインしている。

★別海町の男性と結婚した女性たちは、「牛の世話は大変だけれど、素晴らしい自然の中で家族と一緒に働けることに魅力を感じた」「人情あふれる温かな町の様子が、別海町での生活を決心させた」などと、交流会に参加した感想を話している。

★41回目を迎える今回の交流会では、雄大な自然の中で、酪農研修牧場での酪農体験など、酪農青年や地域の人と交流を図っていく予定。

★こうした交流会がきっかけで、枚方市は別海町と昭和62年2月に友好都市提携を結んだ。枚方市では、同会のほかにも、中学生が隔年で夏休みに互いのまちを訪問する「少年少女ふれあいの翼」や枚方市友好・交流都市物産展など別海町との交流の輪を広げている。

★参加費用は3万円。募集要領・参加申込書の請求は、住所・氏名・電話番号および「菊と緑の会」資料請求と記し、はがきかファクス、もしくは電子メールで、枚方市観光交流課へ。電話請求可。また、市ホームページからの取り出しも可。応募方法は、参加申込書を郵送で同課へ。8月16日消印有効。募集10人。参加者説明会を9月に実施予定。

★「菊と緑の会」 過去の参加者より

令和4年度39回「菊と緑の会 in べつかい」に参加。

「菊と緑の会」でカップルとなり、その後お互いに行き来して交際を続け、令和5年3月に結婚。

男性 谷 雅之(たに まさゆき)さん (36歳)

経営概況 総所有地 213ha 乳牛頭数 252頭 (成牛 122頭・育成 130頭)

女性 (滝川) 有佳(たきかわ ゆうか)さん (35歳)

有佳さんのコメント：

「ここまで来ると、べつせかい！」町観光協会のキャッチコピーのとおり今までの日常とは想像もしなかったすばらしい日々を送っています。

菊と緑の会では大自然に驚きました。参加者の方をはじめ職員の方、お店の方、みなさんあたたかく迎えてくださり、感動の4日間でした。ありがとうございました。

酪農の仕事はとても面白くやりがいがあります。とっってもかわいい牛さんたちと、家族、従業員の方と素敵な毎日を過ごすことができ感謝しています。できる仕事をどんどん増やしていきたいです。

これからも、仕事や趣味のガーデニング、北海道の大自然を満喫しながら「べつせかい」の日々を過ごしていきたいです。

★交流会の様子

溪流カヌー川下り体験の様子

酪農体験の様子

あきあじまつりの様子

★参考

枚方市は国内外の都市と友好都市提携を結び交流を進めています。

【海外友好都市】

中華人民共和国 上海市 長寧区 《1987(昭和62)年12月提携》

オーストラリア連邦 クイーンズランド州 ローガン市 《1995(平成7)年3月提携》

大韓民国 全羅南道 靈岩郡 《2008(平成20)年3月提携》

【国内友好都市】

高知県四万十市 《1974(昭和49)年4月提携》

北海道別海町 《1987(昭和62)年2月提携》

沖縄県名護市 《1997(平成9)年7月提携》

この内容に関するお問い合わせは…

○枚方市役所 観光にぎわい部 観光交流課

〒573-8666 枚方市大垣内町 2-1-20

電話 072-841-1357(直通) E-mail sanbun@city.hirakata.osaka.jp

○別海町産業後継者対策相談所 (別海町 産業振興部 農政課内)

電話 0153-75-2111 (代)